

水に感謝して生きる

山添村立山添中学校二年

植田 瑛翔

朝起きて顔を洗う。喉が渴いてコップ一杯の水を飲む。お風呂に入って一日の疲れを癒やす。私たちの日常は、常に「水」と共にあります。あまりにも身近すぎて、私たちは水があることを空気と同じように「当たり前」だと思っています。蛇口をひねれば、いつでも透明で冷たい水が出てくる。このことに、わざわざ感謝の言葉を述べる人は少ないかもしれません。

しかし、もしも明日から一滴も水が出なくなったらどうなるでしょうか。飲み水に困るだけでなく、トイレも流せず、体も洗えず、私たちが食べている野菜や肉も作ることができなくなります。そう想像してみると、普段何気なく使っている水が、実は私たちの命を支える「一番大切な宝物」であることに気づかされます。今日は、この当たり前の中にある奇跡について、改めて感謝の気持ちを込めて考えてみたいと

思います。

まず感謝したいのは、自然界が作り出している壮大な水の仕組みです。地球上の水は、ずっと同じ場所に留まっているわけではありません。海の水が太陽に温められて蒸気になり、空に昇って雲になります。それが雨や雪として山に降り注ぎ、地面に染み込んで川となり、また海へと帰っていきます。

この「循環」こそが、地球上のあらゆる命を繋いでいます。森の木々が二酸化炭素を吸って酸素を吐き出せるのも、田んぼの稲が黄金色に実るのも、すべては水が命を運んでいるからです。私たちが今飲んでいる水は、何千年も前に降った雨が地層でゆつくりとろ過されたものかもしれません。自然が長い時間をかけて作り上げた「命のバトン」を、私たちは受け取っているのです。そう思うと、目の前の一杯の水が、とても尊く、キラキラと輝いているように見えてきます。

次に感謝すべきなのは、その自然の恵みを

「安全な飲み水」として私たちの家まで届けてくれる人々の存在です。世界を見渡せば、泥の混じった川の水を何時間もかけて汲みに行かなければならない人々や、汚れた水のせいで病気になるってしまう子供たちがたくさんいます。日本のように、どこでも蛇口から直接水が飲める国は、実は世界でも数えるほどしかありません。

私たちが安心して水を使えるのは、浄水場で水をきれいにしてくれる人、地下に張り巡らされた水道管を修理してくれる人、水源となる森を守っている人など、たくさんの方のプロフェッショナルの支えがあるからです。震災などで断水が起きたとき、自衛隊の給水車に並ぶ人々の姿をニュースで見ることがあります。水が出ることは「権利」ではなく、多くの人の努力によって守られている「恩恵」なのだと強く感じます。蛇口をひねるとき、その向こう側にいる人たちの顔を想像してみるだけで、感謝の気持ちが自然と湧いてきます。

水は、いつも黙って私たちを潤してくれます。あまりにも身近すぎて、そのありがたみを忘れがちですが、水こそが私たちの命の源であり、喜びの源です。暑い日に飲む冷たい水の美味しさ、お風呂に浸かったときの解放感、雨上がりの草木の匂い。そうした小さな幸せは、すべて水が届けてくれるものです。

私はこれからも、水に対する感謝を忘れない人間でありたいと思います。蛇口を閉めるとき、コップの水を飲み干すとき、心の中で小さく「ありがとう」とつぶやいている。その小さな感謝の積み重ねが、自分自身の心を豊かにし、地球を優しく守る力になると信じています。透明な水が、これからもずっとこの地球で輝き続けられるように、私は今日からできることを始めていきたいです。